

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年12月2日～12月8日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年12月11日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### ▼グルジア国会議員がアブハズ人およびオセット人の市民代表者らと非公式に面会(1日-2日)

・「グルジアの夢」のジャパリゼ議員とヴォルスキ議員がロンドンでアブハズ人およびオセット人の市民代表者らと、紛争の原因や解決の方法について非公式に会談。

#### 【アブハジア】

#### ▼ヌルガリエフ露連邦国家安全保障会議副書記がアブハジアを訪問(2日-5日)

・アンクワブ・アブハジア「大統領」および最近就任したアシュバ・アブハジア「国家安全保障会議書記」と会談し、社会・経済分野および安全保障の分野などでの露・アブハジアの協力について議論。

・「ヌ」副書記はコドリ溪谷、ガリ地区など各地方を視察。

#### 【南オセチア】

#### ▼ロシア外交官にとって危険な地域のリストから南オセチアが除外される(3日)

・露外務省は外交官にとって危険な地域のリストから南オセチアを除外。リストに残っているのはイラク、アフガニスタン、イエメン、リビア、パレスチナ、シリア。

#### ▼スルコフ露大統領補佐官、ズボフ露内務次官が南オセチアを訪問(3日-5日)

・3日～5日、スルコフ露大統領補佐官が南オセチアを訪問。ティビロフ・南オセチア「大統領」とともに各地方のインフラ整備の状況を視察。

・4日にはズボフ露内務次官が南オセチアを訪問。ティビロフ・南オセチア「大統領」と、露内務省と南オセチア「内務省」の協力について協議。

### 2. 外 政

#### ▼対露関係についてのガリバシヴィリ首相の発言(2日)

・露国営英語 TV「Russia Today」のインタビューでガリバシヴィリ首相は、ソチ冬季五輪にはグルジア政府の代表団は出席せず、グルジアからは選手とグルジア・オリンピック委員会の代表者のみが参加すると発言。

・「ガ」首相は、露・グルジアの通商関係において「良好な改善」があった一方で、ロシア国境警備隊が南オセチア行政境界線に沿って障害物を建設していることは「我々には理解不能である」として、「この『国境化』は信頼醸成のプロセスを阻害している」と述べた。

・NATO への加盟を目指しながらいかにロシアとの関係

を正常化するのかと尋ねられた「ガ」首相は、グルジアは「EU および NATO への加盟がロシアに対する脅威を意味するものではない」ことをロシアに納得させなければならぬとして、「対話が必要である」と答えた。

#### ▼ウクライナ情勢に関する要人の発言(2日)

・ウスパシヴィリ国会議長は、ウクライナ国民が「自らの自由な選択を実現することが可能であるよう期待する」「ウクライナの状況の悪化でグルジアが得を考えると考えるのは『非常に近視眼的』であり、ウクライナ国民の不利益がグルジアの利益になるわけがない」と発言。

・パンジキゼ外務大臣は、グルジアはウクライナ情勢を「懸念」をもって注視していると述べつつ、「何事も欧州との統合を目指すグルジアの選択に影響を与えることはない」とコメント。

#### ▼トビリシで第6回GUAM議員会議が開催される(2日-3日)

・GUAM メンバー国のほかに、バルト諸国会議、ポーランド国会およびテュルク諸語国議員会議の代表団が出席。パンジキゼ外務大臣が、グルジアが議長国であった1年間の成果を総括。GUAM 議員会議のコミュニケと、GUAM 議員会議、バルト諸国会議およびポーランド国会の共同声明が発表された。

#### ▼露グルジア関係およびEU加盟に関するマルグヴェラシヴィリ大統領の発言(4日)

・TV「ルスタヴィ2」のインタビューで、「マ」大統領は「ロシアはグルジア・EU の連合協定の署名を阻むべく影響力を行使する手段を既に使い果たしてしまっている」として、ロシアがグルジア産品に対して再び禁輸を発動したとしても「二国間貿易はグルジアの不安定化を引き起こすレベルには達していない」と発言。

・「マ」大統領は、「社会が欧州との統合を目指す選択に関して極めて結束している」という事実がグルジアの外交政策を外的な圧力に対して強くしているとしつつ、ロシアがグルジア国内で「『過激なグループ』に欧州との統合に反対させるよう指示する」可能性を排除しなかった。

#### ▼露グルジア関係に関するラヴロフ露外務大臣の発言(4日)

・ブリュッセルでの NATO・ロシア評議会会合後の記者会見で、対グルジア関係について、ラヴロフ露外務大臣は、ロシアは関係を「発展」させることを望んでいるとして、「我々はグルジアの新しい指導部のアプローチを評価している。我々には長期間にわたる共存、精神的・歴史的な親近性という非常に良い基盤がある」と発言。

・南オセチア行政境界線上のフェンスの設置について、

ラヴロフ露外務大臣は、『「国境」は確実に守られねばならない。興奮している人々が冷静になれば鉄条網は不要になるだろう』と述べた。

#### ▼NATOグルジア委員会外相級会合(4日)

・ブリュッセルで行なわれた NATO グルジア委員会会合にパンジキゼ外務大臣が出席。ラスムセン NATO 事務総長は現在のパートナー関係の意義に焦点を当てつつ協力の重要性を再確認し、「我々はブカレスト首脳会議の決定を固く守り、グルジアの人々が求める NATO 加盟が実現するよう支持を続ける」と述べた。

#### ▼パンジキゼ外務大臣がケリー米務長官と会談(4日)

・NATO 大臣級会合が行われていたブリュッセルにて会談。会談にはゲゲシゼ駐米グルジア大使、ヌーランド米務次官補、バス前駐グルジア米国大使らが同席した。

・ケリー米務長官はグルジア・EU の連合協定の仮署名を歓迎し、欧州との統合プロセスを支援する用意があることを表明。

・「パ」外務大臣は、「我々は連合協定の署名までの間にグルジアに対してロシアが行行使し得る圧力についても議論した。議論の焦点は多くの重要な政治イベントが予定されている 2014 年に当てられた」と話した。

#### ▼第20回OSCE外相理事会にパンジキゼ外務大臣が出席(6日)

・キエフにて行なわれた第 20 回 OSCE 外相理事会にパンジキゼ外務大臣が出席。

・評議会で「パ」外務大臣は、グルジアの被占領地域における安全保障・人権状況に対する国際社会の支援の重要性に焦点を当てた。また、ロシアに対し 2008 年の停戦合意の内容の履行を求めるとともに、ロシアがグルジアの武力不行使宣言に応じるよう、OSCE メンバー国がロシアに対する外交的な圧力を強めることを求めた。紛争の平和的な解決プロセスにおいて OSCE の役割を強化する必要があることを強調。

・グルジア外務省によれば、ロシアの反対により、グルジアにおける紛争に関する OSCE 声明の採択が合意に至らなかった。OSCE 外相理事会の政治宣言についても、OSCE 地域内に紛争が存在する旨の声明をロシアが拒否したため、採択できなかった。

#### ▼ヌーランド米務次官補がグルジアを訪問(6日ー8日)

・ヌーランド欧州ユーラシア担当米務次官補はマルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、アラサニア国防大臣、野党「統一国民運動」の代表者、市民社会の代表者らと会談。

・「ガ」首相との会談で、ヌーランド米務次官補はオバマ米大統領の親書を手渡した。親書は「ガ」首相の就任を祝い、「米国とグルジアはあらゆる共通の利益に基づく強い特別なパートナー関係を持っている」と記している。

#### ▼サーカシヴィリ前大統領がキエフで反政府デモ参加者らに対し演説(7日)

・6日、「サ」前大統領はキエフに到着。翌7日、独立広場に集まっている反政府デモの参加者の前で、「ウクライナの勝利はプーチンの時代を終わらせるものであり、それはまさにこの広場から始まる」と演説した。

・「サ」前大統領はウクライナの野党リーダーの一人クリチコ・ウダール党党首と会談。ウダール党は「統一国民運動」とパートナー関係にある。

・7日朝、「サ」前大統領はグルジアのTV「ルスタヴィ 2」の記者に対し、ウクライナの状況はグルジアにとって極めて重要であり、「グルジアの運命もここで決まろうとしている。我々は傍観者ではいられない」と話した。

・既に4日以降、「統一国民運動」の議員数名が「デモを支持するため」キエフを訪れている。

### 3. 内 政

#### ▼サガネリゼ「グルジアの夢」院内総務が政界を引退する意向を表明(3日)

・引退の時期は明らかにしなかったが、「サーカシヴィリ政権を倒すという主要な任務は終わった」として、近い将来に政界を引退し、ビジネスに戻りたいと発言。「グルジアの夢」内部の対立は否定した。

#### ▼トランスペアレンシー・インターナショナル(TI)の「汚職知覚指数」ランキング(3日)

・TI が発表した「汚職知覚指数」のランキングで、グルジアの清潔度は 177 カ国・地域中 55 位。昨年の 51 位から順位を下げた。トルコ 53 位、アルメニア 94 位、ロシアおよびアゼルバイジャン 127 位。日本は 18 位。

・TI は政府の情報公開などに関する改革を評価しつつ、検察、監査局、競争促進機関の強化を勧奨している。

#### ▼グルジア正教会が地方自治制度の改革案に反対の立場を表明(4日)

・11月23日に地域開発・インフラ省が国会に提出し、現在国会が審議中の地方自治制度の改革案について、イリア 2 世グルジア正教会総主教が、「グルジアの分裂に繋がる恐れがある」として反対を表明。一部の国会外野党も同様の批判を行なっている。

・改革案は少なくとも 17 の都市の首長および全ての地区長の選出プロセスを住民の直接選挙とするなど、地方自治を強化するもの。現在、直接選挙で選ばれる首長はトビリシ市長のみ。

・5日、ウスパシヴィリ国会議長とガリバシヴィリ首相がグルジア正教会の代表者と会談。

・5日、「自由な選挙と民主主義のための国際社会」、「Transparency International Georgia」など、23 の NGO が政府の改革案を支持する共同声明を発表。

・「グルジアの夢」のセシアシヴィリ議員は、地方自治の強化が必要であることでは与党連合は一致しているが、

リスクは認識しており、それについて与党連合内でも議論していると発言。

#### ▼控訴裁判所がアハライア元国防大臣に対するトビリシ市裁の無罪判決を支持(4日)

・国防大臣であった2010年から2011年にかけて、兵士の虐待や権力濫用があったとして3件について起訴されていたが、2013年8月にトビリシ市裁判所がいずれの件でも無罪判決を下した。検察が控訴したが、控訴裁判所はトビリシ市裁判所の判決を支持。

・「ア」元国防大臣と同時に起訴された7名のうち、4名についてはトビリシ市裁の無罪判決を支持。一方、無罪とされていたカラダゼ元統合幕僚長を一部有罪とし、有罪とされていた残る2名については刑を重くした。

#### ▼トビリシ市裁がチハタラシヴィリ元次席検事の審理前勾留を決定(8日)

・2010年～2012年に次席検事を務めたチハタラシヴィリ氏は、検察の主張によれば、2012年9月に刑務所内での囚人虐待の映像が暴露された際、虐待映像が「グルジアの夢」が仕組んだものであるかのように見せかけるためにアデイシヴィリ法務大臣(当時)とともに工作を行なった。「チ」元次席検事は7日に逮捕され、翌8日、トビリシ市裁が審理前勾留を決定。

・「ア」元法務大臣は2012年10月以降国外に滞在しているが、2012年12月に起訴され、2013年1月に裁判所が本人不在のまま審理前勾留を決定。グルジア政府の要請によりインターポールに指名手配されている。

## 4. 経 済

#### ▼2014年の内国債は6億ラリ(3日)

・ハドゥリ財務大臣は2014年に内国債を6億ラリ程度発行する予定であるとして。うち4億ラリを国庫歳入に、2億ラリを長期的な融資を行ないやすくするよう民間銀行の預け金に割り当てると発表。

#### ▼2013年11月のインフレ率(3日)

・月間インフレ率は0.5%。食品・非アルコール飲料の価格が1.5%上昇。野菜(+10.2%)、牛乳、チーズなどの価格が上昇したのに対し、果物(-5.7%)の価格は下落。

・年間インフレ率は0.6%。

#### ▼ガリバシヴィリ首相が経済評議会を設置(4日)

・経済・持続的開発大臣、財務大臣、パートナーシップ基金理事長、グルジア鉄道社長、共同投資基金理事長ら12名から成る経済評議会が設置され、4日、初めての会合が開かれた。グルジア経済の現状について議論し、グルジア国立銀行総裁が評議会に加わる事が提案された。

#### ▼2013年11月の入国者数(4日)

・内務省が発表。11月の入国者数は417,522人。前年同月比12.6%増。国籍別では多い順にトルコ、アゼルバイジャン、アルメニア、ロシア、ウクライナ、イラン。

・2013年1月～11月の入国者数は4,973,632人。前年同期比22.6%増。うち旅行者39%、トランジット客22%。

#### ▼米Forbes誌の「ビジネスに最適な国」のランキングでグルジアが50位に(6日)

・税制度、汚職度、自由度、革新性など11の基準で評価したForbes誌のランキングで、グルジアは145国・地域中50位。アルメニア64位、アゼルバイジャン67位、ロシア91位。

## 4. その他

#### ▼UNESCOがグルジアの伝統的なワイン製法を世界無形文化遺産に指定(4日)

・地中に埋めた卵型の甕「クヴェヴリ」を用いた伝統的なグルジアワインの製法が、「和食」などとともにUNESCOの世界無形文化遺産のリストに登録された。